

学生発マルシェ 今年も

新百合ヶ丘 商店街参加、100ブースに



川崎市麻生区の小田急線

新百合ヶ丘駅周辺で10月24日に開かれる市場「しんゆりマルシェ」に向けて、発案した大学の学生らが準備を進めている。初回の昨年は約2万5000人が来場したが、今年は20ほど多い約100ブースを予定し、一層のにぎわいが期待される。

マルシェに向けたミーティングで、会場案内のコンシェルジュの衣装をチェックする東京都大の学生ら（21日、東京都世田谷区の等々力キャンパスで）

ている。

同イベントは、東京都大都市生活学部（東京都世田谷区）の学生のアイデアから生まれ、昭和音大、専修大、田園調布学園大など同駅周辺にキャンパスを持つ7大学も加わり、地元商店会などと実行委員会を結成。昨年は地元のベーカーリーや無農薬野菜、アクセサリー販売店、飲食店など約80のブースが並んだ。今年には約40店が加盟する地元商店街が新たに参加。

大学も9校に増え、明治大農学部が地元農産品を使ったスイーツ紹介、昭和音大のライブなど、それぞれの特色を生かした出店や展示などを行う。

東京都大の今年のテーマは「地域の魅力発信」。末繁雄一講師の指導で、学生17人が出店する飲食店や商店を取材しており、店の特徴や経営者の熱い思いをホームページに掲載し、サポートする。昨年が続いてマルシェに参加する3年の山本早紀さん（20）、戸田朱美さん（20）、山本夏帆さん（21）は「こだわりを持つ店主の方の話はとても新鮮。新百合ヶ丘がより面白い街になれば」と話している。

■この記事・写真等は読売新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。